



第5回 第4期幸区区民会議

平成26年2月3日(月)



暮らしの安全部会 報 告



- 1 地域防災力の向上に関する取組
- 2 マイ防災マップづくりワークショップ
- 3 提言内容案(地域防災力の向上)
- 4 自転車ルール順守の推進に関する取組
- 5 幸区リレーカーニバルにおけるスケアード・ストレート方式の交通安全教室
- 6 提言内容案(自転車ルールの順守の推進)

1 地域防災力の向上に関する取組

(1)課題となっていること

- 東日本大震災の発生により、区民の防災に対する関心の高まり
- 発災時に、自分の身を自分で守る「自助」の意識の必要性

(2)検討の方向性

- 発災時に、区民一人ひとりが迅速かつ適切な対応を図れるようにする。
- 区民の防災意識の向上を図る。



3

2-1 マイ防災マップづくりワークショップ

(1)日時

平成25年8月28日(水)10時35分～12時35分

(2)場所

日吉中学校、日吉合同庁舎、幸区北加瀬1丁目地内

(3)参加者

約60人

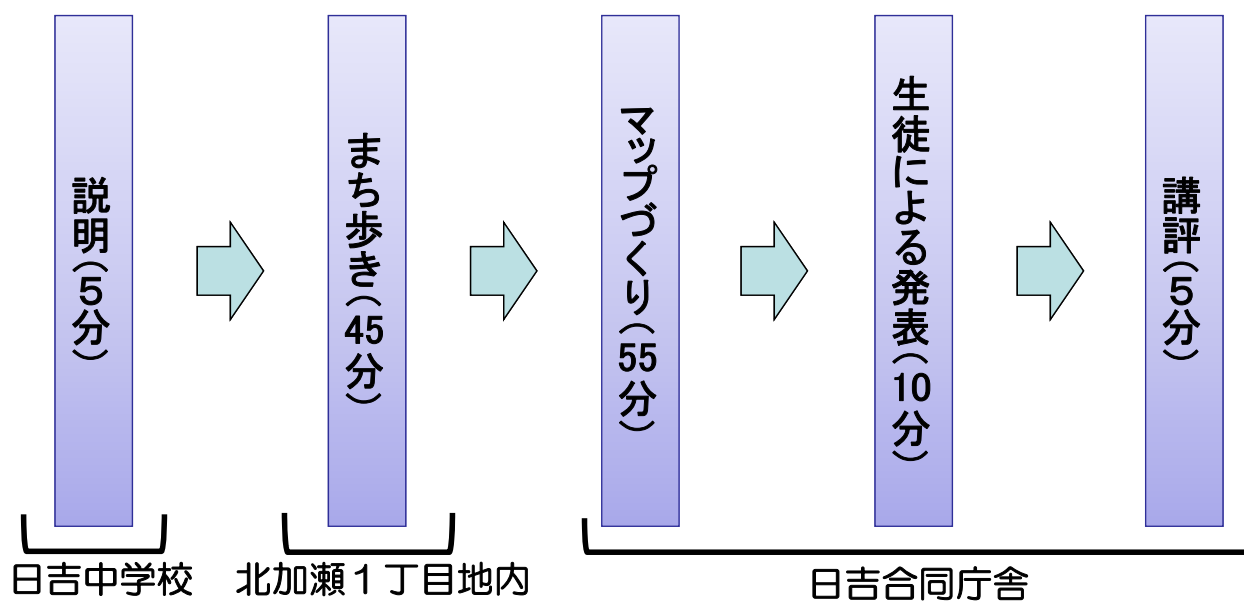
- ・日吉中学校3年生・教員
- ・日吉中学校PTA
- ・自主防災組織
- ・かしまだ地域包括支援センター
- ・幸消防署、幸区役所
- ・区民会議委員



4

2-2 マイ防災マップづくりワークショップ

(4)実施の流れ

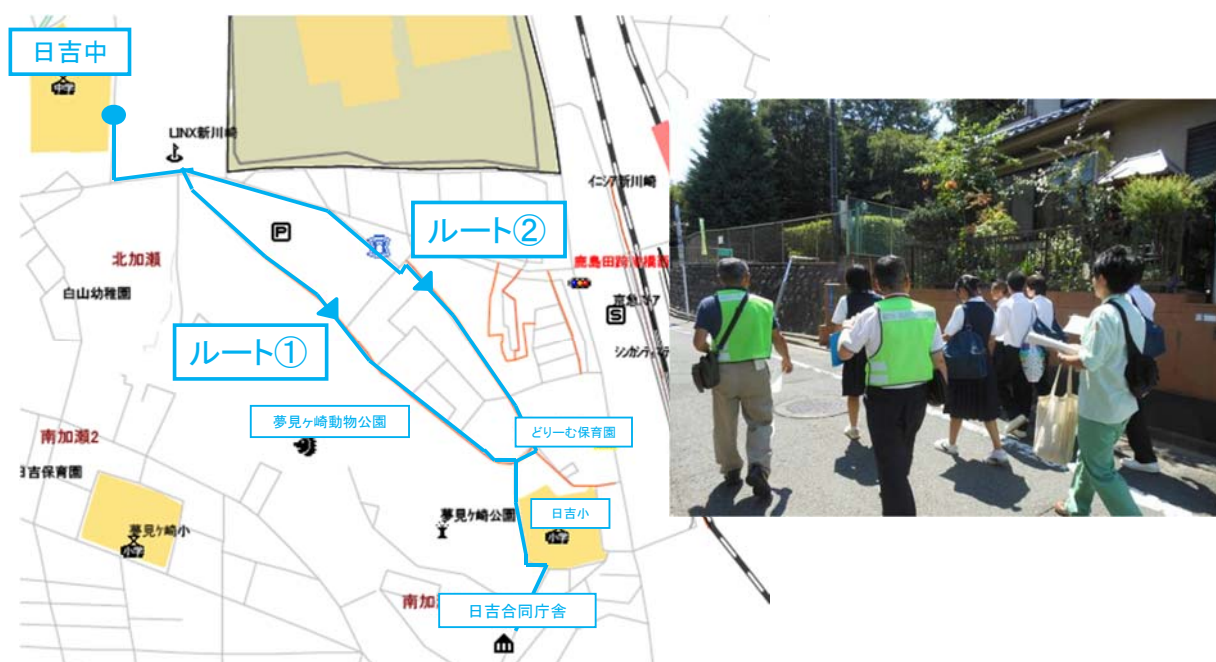


5

2-3 マイ防災マップづくりワークショップ

(5)まち歩きのルート

- ・日吉中学校～北加瀬1丁目地内～日吉合同庁舎に向かう2ルート



6

2-4 マイ防災マップづくりワークショップ

(6)生徒からの感想

○災害時に注意しなければならないポイント(ブロック塀や消火栓など)について、地域の状況を理解することができた。

○普段から災害時を想定して、避難場所や避難ルートなどを家族で話し合う必要性を感じた。



3 提言内容案(地域防災力の向上)

◆提言1◆

地震等の災害に備え、「マイ防災マップ」づくりなどの取組を推進し、防災意識や地域防災力の向上を図ることを提案します。



4 自転車ルール順守の推進に関する取組

(1)課題となっていること

- 幸区内で自転車に関係する重大事故の発生
- 携帯電話・イヤホンを使用しながらの運転など、自転車の違反走行の多発
- 自転車ルールの認知度不足



(2)検討の方向性

- 区民の自転車ルール順守の意識を高める。

9

5-1 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

(1)日時(幸区リレーカーニバルの昼休み時間に開催)

平成25年10月13日(日)12時20分～12時45分

(2)場所

塚越中学校校庭

(3)参加者

約3,000人

- ・リレーカーニバル参加者
- ・各地域団体関係者
- ・幸警察署、幸区役所
- ・区民会議委員



※スケアード・ストレートとは
スタントマンによる事故の再現を
通して、恐怖や衝撃を目の前で
体感できるもの

10

5-2 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

(4)実施プログラム

- ①時速40km走行による自動車と自転車の衝突
- ②自転車ルールを守らない乗り方
(スマートフォン見ながら、傘差し、ヘッドホン)
- ③横断歩道を渡る歩行者と自転車の衝突
- ④路上駐車した車のドア開放による自転車との衝突

11

5-3 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

①時速40km走行による自動車と自転車の衝突



12

5-4 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

②自転車ルールを守らない乗り方



スマートフォンを見ながら



傘差し



ヘッドホンをつけて

13

5-5 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

③横断歩道を渡る歩行者と自転車の衝突



5-6 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

④路上駐車した車のドア開放による自転車との衝突



15

5-7 スケアード・ストレート方式の交通安全教室

⑤自転車ルールへの順守を呼び掛ける広報紙を配布



16

◆提言2-1◆

スポーツチームとの連携や、公用車の活用などにより、自転車ルールへの順守の効果的な啓発活動の実施を提案します。



◆提言2-2◆

スケアード・ストレート方式を活用した、効果的な自転車交通安全教室の実施を提案します。



みんなで見守りたい 報告



- 1 地域の見守り体制づくりに関する取組
- 2 インタビュー調査
- 3 「ひとり暮らし高齢者等への見守り方法などをまとめた冊子（「見守りに関する冊子」）のあり方
- 4 提言内容案（地域の見守り体制づくり）

1 地域の見守り体制づくりに関する取組

(1)課題となっていること

○地域における結びつきや共に支え合う関係の弱体化

○孤独死の問題など、高齢者を巡るトラブル等の多発

(2)検討の方向性

○ひとり暮らし高齢者等に対する地域の見守り体制の強化を図る。



2-1 インタビュー調査

(1)インタビューの目的

○「見守りに関する冊子」の検討にあたり、次の点について意見を伺った。

- ・冊子に求められる記載事項
- ・作成にあたって留意すべき点 等

(2)インタビューの対象等

	調査日	調査対象
1	H25.9.18(水)	川崎市介護支援専門員連絡会幸区代表幹事
2	H25.10.8(火)	幸区内の地域包括支援センター

21

2-2 インタビュー調査

(3)川崎市介護支援専門員連絡会幸区代表幹事へのインタビュー

○介護保険による支援と見守りの関係

- ・介護保険サービスを受けていても孤独死は防げない。
- ・地域で見守りをする方々と、ケアマネージャーが連携できる場があると良い

○地域での見守りの体制

- ・高齢者の異変に気付くのは近所の人が多いため、何かあった時に、すぐに関係機関とつなぐネットワークが必要



22

2-3 インタビュー調査

(4)幸区内の地域包括支援センターへのインタビュー

○地域包括支援センターと見守りの関係

- ・見守り活動の相談窓口は、行政と地域包括支援センター何でも相談して欲しい。
- ・地域で見守り活動が盛んになることは、とても心強い。

○地域での見守りの体制

- ・地域包括支援センターが見守り活動の相談機能を担っていることを知られていない。一層の周知が必要



23

3-1 「見守りに関する冊子」のあり方

(1)見守り活動の対象者

○見守りが必要な人

- ・ひとり暮らしの高齢者
- ・高齢者のみの世帯 等

○見守り活動を支える人

- ・高齢者等の近所に住んでいる人
- ・通学や通勤の途中によく見かけるなど、身近に高齢者等がいる人
- ・自営業者などで顔見知りの高齢者等がいる人 等



24

3-2 「見守りに関する冊子」のあり方

(2)見守り活動の効果

- ひとり暮らし高齢者等の周囲からの孤立化の防止
- 交通事故や火災、盗難等の犯罪被害に巻き込まれるリスクの低減
- 問題を早期に発見することで、問題の複雑化・深刻化の防止
- 地域で顔の見える関係作りの促進



25

3-3 「見守りに関する冊子」のあり方

(3)見守り活動を行う上での留意点

- 挨拶を交わすなど、日頃からコミュニケーションを取り、良好な人間関係を築く。
- できることを行い、できないことは専門機関に連絡をするなど、決して無理をしない。
- できる限り、さりげない見守りを心がけ、相手の立場にたった接し方をする。
- 知り得たプライバシー情報をむやみに口外しない。



26

3-4 「見守りに関する冊子」のあり方

(4)見守り活動の取組方法

	チェックポイント		連絡・相談窓口
安否が心配される例	☐	最近姿を見かけなくなった	《想定例》 ◎幸区役所高齢・障害課 ◎地域包括支援センター ※緊急性・重大性が高いと判断されるような場合で、犯罪被害等に関することは「110番（警察）」に、急病・怪我等に関することは「119番（消防）」へ通報・連絡
	☐	洗濯物が何日も干したままになっている	
	☐	何日も、 { 夜間に灯りが点かない 日中に灯りが点きっ放し	
	☐	何日も、窓、カーテン、雨戸が開閉された様子がない	
	☐	新聞、郵便物が数日分たまっている	
	☐	ごみが放置されていたり、庭が荒れている	
心身の状態が心配される例	☐	いつも同じ服や季節に合わない服を着ていたり、服が汚れたり破れたりしている	
	☐	具合が悪そうに見える	
	☐	家から怒鳴り声や物を投げつける音が聞こえる	
	☐	近隣とのトラブルが目立つ	
	☐	見慣れない人が頻繁に訪ねている	

27

4 提言内容案(地域の見守り体制づくり)

◆提言3-1◆

ひとり暮らし高齢者等の異変を見つけた場合の対処方法などをまとめた冊子を作成・活用し、見守り活動の裾野を拡大することを提案します。



◆提言3-2◆

見守り活動に関するサポートなどを気軽に相談できる窓口や、情報発信を充実させることを提案します。

28